津の文化　津観音

◆津観音

古くから「津の観音さん」と呼ばれ、多くの人々から親しまれてきた真言宗の名刹。正式には「恵日山観音寺」と言い、浅草観音、大須観音と並び日本三観音の一つに数えられている。

和銅2年（709）、安濃津浦で漁をしていた漁夫の網にかかり、現れたという聖観世音菩薩を御本尊に祀っている。開山以来、地元津はもちろん、全国の人々から深い信仰を集め、開創1300年を迎えた今年、年間

を通して様々な催しが企画されている。

住所　津市大門32番19号

◆会式

開創1300年の始まりとなる会式が4月1日本堂であり、関係者約100人が参列し行われた。

記念式典では、津観音保存会の飯田俊司会長が「津観音は被家がいない民衆の祈願所、津市民の信仰の中心にあり、津市とともにあった。1300年記念事業協議会を設立し、この1年を県、津市、商店街などと連携し、新たに賑わいを増していきたい」と挨拶した。

松田直久津市長は「津観音は津市民の心の寄りどころ、支えであったと実感。そして津観音の行事で四季を感じてきた。津市の町づくりの元気に繋がるよう、より繁栄されることを祈る」と祝辞を述べた。岩鶴密雄院家は津観音の歴史に触れ、「戦災にあっても、こうしてあるのは皆様の誠意と熱意のおかげ。本日1300年記念事業の最初のイベントを行うことができました」と挨拶した。

引き続き、岩鶴院家や密伝開住職、僧侶約10人により、特別法要も厳かに営まれた。

岩鶴院家は「このお寺はこの地方と共に生き、この地方の方々の平穏安全のために成り立っている。市民と喜怒哀楽を築いてきたこのお寺が津市に果たす役割を次の世代に向けて考えていきたい」と話した。

◆五重塔御開扉

仏法興隆と世界平和を祈願した三重県下初の純木造の津観音五重塔の内部が5月16、17日の2日間、公開された。開創1300年記念事業の一環。

公開された1階部分は、内陣に大日・釈迦・阿弥陀・薬師の4体の仏像が安置されており、天井や壁、柱などは極彩色で彩られている。2005年以来久しぶりの公開に、多くの信者や人々が訪れ、普段見ることのできない塔の内部を熱心に見学していた。

また、本堂内陣や津観音資料館も見学でき、津観音の歴史を辿るようにゆっくりと仏像や掛け軸などの宝物を眺める人の姿も見られた。本堂では11月に行われる結縁灌頂（けちえんかんじょう）に使用される投花得仏（とうけとくぶつ）の壇も再現。岩鶴密雄院家は「阿闍梨（あじゃり）が皆さんに仏とご縁を結ぶため法を授ける儀式である結縁灌頂をよりイメージしてもらいやすいかと思います」と話した。

平成13年5月に再建された五重塔は、木造本瓦葺で、間口・奥行き3間、総高21メートル。内陣は極彩色で、仏像は脱乾漆造。堂宮大工を始めとし、多くの職人による技を結集し、完成させた。

◆津観音開創1300年記念事業予定

津観音では、4月1日の会式を始まりとして、開創1300年記念事業を今後1年間にわたり、展開していく。地域と協働として行う様々な記念イベントに注目したい。

4月1～4日　会式
4月1～5月末まで　津観音寺宝特別展
4月4日　開創1300年記念飛児練・高虎楽座
5月16～17日　五重塔御開扉
5月17日　特別法要・津市物産まつり
6月18日　特別法要
7月7日　七夕法要
7月28日　平和と感謝の祈り
8月9日　十日観音
11月21～23日　結縁灌頂

◆結縁灌頂（けちえんかんじょう）

津観音では、11月21～23日に県内では初めてとなる阿闍梨（密教で修行が一定の段階に達し、灌頂を受けた僧）が皆さんに仏とご縁を結ぶため、法を授ける儀式「結縁灌頂」を行う。頭頂に水を灌（そそ）ぐことから灌頂と名付けられている。密教において、最も重要な宗教儀式とされている。

結縁灌頂は他の灌頂とは違い、僧侶を対象にしたのではなく、受ける人を選ばない。「堂内の神秘的な時空間の中で、仏と対面し、自分の心の中に仏を得る儀式である」と津観音大宝院・岩鶴密雄院家。実施するには、準備や費用などが大変なため、地方で行われることはほとんどない。津観音は、地方を代表する本山であったことから江戸時代に行われたという。

津観音大宝院・岩鶴密雄院家

1年以上も前から息子の密伝副住職と共に仏具や僧侶の研修などの準備にかかり、忙しい日々を送ってきた岩鶴院家は、「開創1300年を迎えられたのもお世話になった皆さんのお

かげ。体験して頂き、正式に仏様とご縁を結んでもらえたら」と静かに話した。

入壇（参加）などの問合せは
・津観音開創1300年記念事業協議会（津商工会議所内）
電話059（228）9141
・恵日山観音寺大宝院
電話059（225）4013

◆津観音大宝院の宝物

「津観音大宝院の宝物」は、歴代院家によって、受け継ぎ、守り続けられてきた寺宝の中から歴史的、文化的、芸術的に価値のある物を選び、津観音大宝院の歴史とともに紹介した図録（A4サイズ・全155ページ）。定価2,000円。本堂で販売している。

また、希望者はFAXやハガキで申し込み、購入することもできる。

申込先　〒514-2007
三重県津市大門32の19
津観音大宝院
FAX 059（226）7057

◆津観音資料館

津観音資料館（宝物館）では、およそ3ヶ月ごとに出展内容を変え、魅力ある展示を行なっていくという。

5月31日まで開催されていた津観音特別寺宝展「開創1300年特別展」も津市指定文化財の「虚空蔵菩薩像」（鎌倉時代）や津観音から贈った折袴の巻数やお茶について書かれた「後柏原天皇女房奉書」（室町時代）、千利休作の茶杓など約50点を展示し、訪れた人々に好評だった。

開館時間は午前10時～午後4時。休館日は月曜日（月曜が祝祭日の時は翌日休館）

拝観料（内陣拝観含む）500円、中学生以下無料、10名以上400円。